

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2471200291
法人名	株式会社 パル
事業所名	グループホーム ゆめが丘
所在地	三重県伊賀市ゆめが丘4-2-1
自己評価作成日	令和 元 年 6 月 20 日
評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&Ji_gvosyoCd=2471200291-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 元 年 7 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ●利用者様への個別ケアを重視しつつ、ホーム全体の雰囲気を良好に保つよう努めている。 ●具体的なケア内容を職員全員で共有できるよう努めている。 ●職員間のコミュニケーション重視 ●全職員への理念・信条・行動指針の浸透
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>三重県内でも屈指のメガ団地の一角に建てられた事業所は、4年前に経営者が変わり、職員も一新して再出発をした。会社基本思念を柱に、施設運営信条や職員信条などを全員で考え、出勤時には必ず目を通し、利用者に寄り添った支援を目指している。職員は常に利用者の笑顔や喜ぶ姿を楽しみに、利用者の要望にはできる限り応えるよう支援しており、利用者や家族から感謝の言葉が寄せられている。調査日の朝、職員がドライブを希望する利用者に出掛ける姿が見られた。「帰ってから直ぐに出掛けたことを忘れてしまわれるけれど、その一瞬の笑顔を大切にしたい」と。事業所の目指す支援を垣間見ることができた。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と信条、理想像の1項目を読んでから業務に入る事を継続してきた結果、職員に浸透してる様子がみられる。ケアの変更を要する場合は、全体会議において、理念を基に考え、共有している。	理念、信条等を出勤時に繰り返し目を通し読み上げることで、職員の意思統一が図られている。何かあった時、会議で対処方法を検討する際にも、必ず理念に沿ったものであるか否かを確認しあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃より、隣接しているかかりつけ医と薬局よりアドバイスをいただきながら、概ね無事に過ごす事ができている。利用者様が地域の方に声を掛けていただくことが多くなった。	周りの団地の年齢層が若く、自治会活動は活発ではないが、地域の清掃活動や奉仕作業にはできる限り参加するようにしている。散歩や買い物の際にも地域住民と挨拶を交わしている。	地域に開かれた頼られる存在になれるよう、独自のイベントなどを検討・企画して、地域に発信されること期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居施設の種類の違いについて、種類や選択の仕方を知りたかった経験を伺ったことから、気軽に聞きに来ていただけるように回覧板などで発信していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に実施し、会議で話し合ったこと、意見をできる限りサービス向上に活かしている。	昨年の目標であった年6回開催を達成することができた。会議では事業所の経営方針や実践状況を知ってもらい、毎回参加者から貴重な意見や要望・提案などが出され、事業所のサービス向上に活かしている。	運営推進会議への参加を社会資源の幅広い分野に依頼して、より充実した会議となるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当者と、日頃から、現状報告をし、様々な課題など相談したり助言をいただいている。	日頃から、質問や困りごとなどで頻繁に連絡を取り相談している。特に今年度は、生活保護の利用者の扱いや、将来的にもう一つ事業所を増やす方向で相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議で確認しあう機会を設けているが、安全を確保しながら身体拘束をしないケアを常に意識して取り組んでいる。	月に1回の全体会議の中で、身体拘束をしないケアについて話し合っている。身体拘束はないが、言葉による拘束については度々確認しあっている。現在、利用者間での言葉による弊害について検討中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホームでの虐待と考えられることを挙げ全体会議で共有すると共に、日ごろから言動を意識し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所として学ぶ機会をつくり、今後につなげていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は、前もって書面を渡し読んでいただいた上、直接しっかり口頭で説明し、不明点などあれば理解いただけるよう丁寧に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に意見・要望をお聞きする体制を書面にてとっているのと、面会時にもお聞きして、できる限り運営に活かしている。	介護計画の見直しの前に、年2回家族の意見を聞く機会を作っている。また、毎月利用者の写真入りで、担当者手書きのコメントを書いたお便りを送り、家族から喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に代表者と職員との個人面談と全体会議を実施し運営に活かしている。管理者と職員は特に日頃から会話する機会を多く創っている。	日頃から職員同士のコミュニケーションはよくとれている。年2回の代表者との面談では運営に関して色々な意見が出ている。最近では、利用者支援にとって有効なシフトの組み方などの意見が出され検討した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って取り組めるよう、努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	役に立つ外部研修があれば、積極的に参加し、参加した職員による社内研修も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者様との関わりが少ないので今後、今以上に関わりを持ち、サービス向上に役立てたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その都度の傾聴で、心配事や要望を伺った事をスタッフ間で共有し、不安の軽減に努めている。同時に、表情の観察や声掛けを行い、安心と信頼に繋がるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の意向をなるべく多く伺いながら、安心していただけるよう努め、利用者様の様子を伝えていく中で、都度心配な事や要望を把握するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の思いを伝えて、家族様の意向を伺い、また協力を得ながら、その時必要としている支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の意思を尊重し、それに沿えるよう努めている。また、日常生活の中での業務を助けていただきながら、過ごしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と家族様の関係の継続も大切な支援と考えており、来訪をお願いすることもある。家族様の意向や状況を伺い、可能な範囲で協力を得ながら支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室や教会の大祭などの送迎の支援を実施している。馴染みの景色を見にドライブに出掛けたり、ケーブルテレビで地元の情報を見て、話題にしている。	殆どの利用者が意思疎通できるため、要望があれば、以前に生活していた地域をドライブしたり、馴染みの店に行っている。NHKから昔の町並みなどの映像のDVDを借りて、みんなで懐かしく見入っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフを交えて、利用者様同士が言葉を交わり関わり合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様へお手紙を書いたり、現在に入居されている施設へ状況を聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時や受診の付き添い時、昼休みなど、じっくり思いを聴かれる機会を大切にしている。	担当の職員が、休憩の時間に利用者の居室でゆっくりと話をしたり、家族からの情報提供で新しい情報があれば、日誌に記録して共有し介護計画にもつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の会話から情報を得たり、それを詳しく家族様に聴き取りさせていただいて、利用者様の背景を知ることに取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リハビリにあたる作業や体操、作品作りなど共に行いながら、変化の気付きや新たな発見に努めている。また、就寝前の訪室で、安心に繋がる声掛けなど対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様と家族様の思い、これまでの馴染みの暮らしをもとに作成し、毎月の全体会議でモニタリングを行っている。スタッフの意見も反映させながら、年2回計画の見直しをしている。	介護計画の見直しは、6か月毎を基本にしている。毎月の全体会議の中で全員のカンファレンスを行い、モニタリングの結果や家族の意見を加味してプランにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録と申し送りにて情報の共有をし、会議で個別ケアの確認をし合いながら支援の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の状況により支援を代わって行うなど、利用者様に安心、安定して生活していただけるよう、その時必要とされる対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	そのときに必要な地域資源を利用しながら、利用者様のよりよい生活の支援に努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者様、家族様に説明し、事業所のかかりつけ医に転医して頂いている。近隣であることから、職員の付き添いで月2回受診しており、体調の変化があれば、専門医受診など指示を仰いで対応している。	協力医が直ぐ近くにあるため、月2回の定期検診や体調不良時の受診が容易である。入居時に家族に説明した結果、現在は全員が協力医により健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を置いていない為、かかりつけ医や薬局でアドバイスをいただきながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様と連携を取りながら、必要に応じて医療機関へ情報交換をし、治療がスムーズに進むよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「その方にとって必要であるという判断に至った場合は、医療設備が整った施設への転居」を理解していただいた上での入居となる。看取りについては、かかりつけ医と相談した現在の方針を家族様に説明し理解していただいて、出来るだけの支援を行っている。	入居時に看取りはしない方針であることを家族に説明し、利用者が介護度3になった時点で、今後の方向性を考えてもらっている。家族からは、看取りの要望が寄せられているが、グループホーム本来のあるべき姿を大切に維持していきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当講習を年1回受講し、初期対応をスムーズに行えるよう、会議で手順を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(7月と12月)様々な設定で避難訓練を実施しており、毎日の役割分担表にて、通報、誘導、消火の担当を決めている。飲料水とカセットコンロを備蓄している。具体的に地域への協力体制を依頼していく内容が課題である。	近くに山や川がないので、主に火災による訓練を消防署に通報して年2回実施している。同敷地内に以前の経営者が住んでいて、いつでも協力を依頼できたり、近くに災害時に頼れる大型スーパーができたことが心強い。また、カセットコンロ・水・米などを備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設運営信条の「一人ひとりの尊厳とその人らしさを尊重する」を心がけていると共に、現場や会議の場で確認し合っている。	日頃から声掛けの仕方や見守りの方法など、利用者全員の意向を考えながら支援している。座席の組み合わせ等利用者同士の関係性に苦慮しているが、ホールが開放的で見守りには適している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴中や居室にてじっくりと傾聴する時間を作り、リラックスして思いを発することが出来るよう、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など基本的な時間を決めさせていただいているが、利用者様それぞれの希望に沿ってご自身のペースで過ごして頂けるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室内の洋服の収納や整理を支援し、着る洋服を一緒に選んだりしている。洗面所にて整容されるよう声掛けや援助を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	業者から届いた食材を湯煎し、利用者様に合った形態で提供している。皆さんに台所仕事に少しづつ関わっていただけるよう工夫している。シチューやおやつ作りを共に行う機会をつくっているが、職員の希望もあり、多くしていきたい。	業者から調理済の料理が届き、利用者の状態に合わせて刻みの具合を調節して提供している。季節の行事食は利用者の希望を聞いて楽しみ膳を用意している。誕生日には職員手作りのケーキでお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	こまめに水分摂取していただき、1日の必要な摂取量に近づくよう気をつけている。見守りをしっかり行い、都度見直しを行いながら、利用者様に応じた対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立した利用者様の見守りも行いながら、口腔ケアを実施している。必要な時は歯科受診を行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、声掛けや見守りで現状を継続できるよう、またパットを外せるよう支援している。センサーマットを設置し、ポータブルトイレでの排泄の見守りを実施している。	シルバーカーや杖の使用者はあるが、車椅子利用はない。排泄の自立度は高く自発的にトイレに行く利用者もいるが、排泄チェック表を基に声掛けや見守りには配慮して失敗を防いでいる。また、排便を促すようにヨーグルトを提供したり、リンパマッサージを取り入れて喜ばれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時のバナナヨーグルトやさつま芋を使ったおやつを提供、体操に取り組みながら、内服の調整を行い、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スムーズに進行できるようスタッフを一人増員し、月・水・金曜の午前中に実施している。身体の観察と、コミュニケーションを個別に取る貴重な時間と捉えており、「気持ちよかった」と喜んでいただいている。	週3回の入浴を目標に、職員の連携がスムーズに運ぶよう工夫をしている。入浴時は、コミュニケーションを楽しむ時間であるとともに、利用者の全身の状態を把握する貴重な機会と捉えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、居室で休息していただくよう声掛けしているが、ホールで過ごすのを希望される方も居る。夜間は、安心して臥床していただけるような声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医、薬局でアドバイスを頂きながら、慎重に行い、様子観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の共同作品として壁画作りが大きな満足感、充実感に繋がっている。裁縫や編み物、庭の花いじりを、また、個々の楽しみとして朝の掃除や草引きを共に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望により、外気浴や散歩、買い物、ドライブなどの外出支援を実施している。行事としてお花見や外食に出掛けている。家族様と外出される利用者様もいる。	日常的には事業所の周辺を散歩して地域住民と挨拶を交わしたり、最近できた大型スーパーに買い物に行っている。また、季節ごとに花見やドライブも楽しんでいる。外出が困難な時には、玄関先に出て、育てている花や野菜を観ながら外気浴をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所の規定により、現金の所持はしていただいているが、それが利用者様の安心に繋がる場合は、家族様と相談し、居室に保管していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に沿って支援している。来訪が遠ざかっている家族様に電話されるよう声掛けすることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月替わりの壁画や色塗りされた絵、生花などを飾り、癒しのある心地よい空間作りに努めている。開放的である為、席からトイレ内が見えないよう配慮している。	手作業の好きな利用者が多く、壁面に飾られた作品の完成度が高い。事業所に飾るだけではもったいないと、銀行に展示させてもらっていて、好評である。リビングは広く、キッチンにも利用者が自由に出入りし参加できるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルとソファを点在させてあり、自由に過ごしていただける環境にある。反対に、離れている場合は、席を近づけて話しやすい環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族様に押入れの収納や整理タンスの設置を行っていただいております。馴染みのものも持ち参り、生活感があって、心地よく過ごされるよう努めている。	居室のエアコン、押し入れ以外はずべて利用者が使い慣れた家具などを持ち込み、それぞれ個性のあるしつらえとなっている。洋服が好きで沢山持ち込み飾っていたり、仏壇・神棚の持ち込みもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	文字で分かりやすく表示したり、動線確保をはじめ、都度環境を整えるよう努めている。		